開催概要 第一回 前橋国際芸術祭 2026 | めぶく。Where good things grow.

アートが誘う、建築の聖地へ。

前橋国際芸術祭実行委員会は 2026 年 9 月 19 日から 2026 年 12 月 20 日の 80 日間、群馬県前橋市のまちなかを舞台に、第一回前橋国際芸術祭 2026 を開催いたします。まちづくりビジョン「めぶく。」をコンセプトに、2016 年から民間主導の再開発が進む群馬県前橋市。建築家・藤本壮介らによるまちの記憶を引き継ぐ先鋭的デザインの建築群が世界から注目を集めています。「めぶく。」策定から 10 年。ここから新たにはじまる前橋国際芸術祭は、中心市街地に点在するアートスポットを結び、芽吹きから若木へ、さらに感性を育む森へと、変容し続ける前橋の都市風景に、人とまちをつなぐウォーカブルなアート体験をちりばめていきます。

会期	2026 年 9月19日[土]− 12月20日[日]
開館時間	10:00 − 18:00
休館日	期間中の水曜日
参加作家	招待作家 70 組／地域協働プログラム 30 企画（プログラム参加作家等は約 60 組）
会場	アーツ前橋／まえばしガレリア／白井屋ホテル／萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館／前橋シネマハウス／ハウゼビル／前橋中央通り商店街／オリオン通り商店街／旧近藤時計店／裏ノ間／寺町藝術センター／ya-gins／Bentena SHOP ／Maebashi Works／map 前橋“市民”ギャラリー／本屋水紋／BnA noie／東和銀行本店併設「憩いの広場」 ／広瀬川河畔緑地／旧安田銀行担保倉庫／Shop rin art association
観覧料	一般 3,000 円（税込）、学生（大学生・大学院生・専門学校生）2,000 円（税込）、一般（前橋市民）3,000 円（税込）、高校生以下無料 *前橋市民の方でめぶく Pay をご利用の方には、後日めぶくポイントで 1000pt を還元いたします。（ArtSticker でのご購入または当日券のみ） *ご購入いただいたチケットは初回来場時にアーツ前橋にてパスポートチケットと引き換えが必要です。
主催	前橋国際芸術祭 2026 実行委員会（実行委員長 田中仁）
助成	文化庁・日本博
特別共催	株式会社メルコグループ
共催	前橋市
協賛	サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジンズホールディングス、株式会社みずほ銀行、株式会社三菱 UFJ 銀行、アクセンチュア株式会社 他（計 18 社）
ふるさと納税寄附企業	常石グループ株式会社、株式会社三井住友銀行、株式会社ほぼ日、ファーストコーポレーション株式会社、大和リース株式会社、株式会社原田、森ビル株式会社、株式会社スペース、日本通信株式会社、みずほ証券株式会社、株式会社ジャオス、イシカワホールディングス株式会社 他 （計 26 社）

―― 本展の見どころ

1　生まれ変わる都市のエネルギーを享受する

1990 年代後半から中心市街地の衰退が続く前橋は、まちづくりビジョン〈めぶく。〉の策定以降、アートの感性を取り入れた都市空間の再整備が、川沿いの親水空間からアーケード商店街へひろがっています。徒歩圏内に〈アーツ前橋〉、〈白井屋ホテル〉、〈まえばしガレリア〉など、最先端のアートに触れられる現代建築群が集まり、シャッター通りとなっていたアーケード商店街ではユニークなローカルビジネスが続々と誕生しています。まちづくりの当事者たちが空きビルなどで仕掛ける劇場やアート民泊、音楽や食のプログラムも、変容する前橋のエネルギーを感じさせてくれるでしょう。私たちは 2 年周期で開催されるこの芸術祭を、国内外から招くアーティスト、地元・群馬の人々、そしてこの壮大な風景創造の挑戦に立ち会ってくださる鑑賞者の皆さまとともにつくり・ともに楽しんでいきます。

2　インバウンドの時代こそ深く掘り下げたい、この土地と街と人の物語

地方に大きな経済効果をもたらしているインバウンド。いま世界が日本文化の固有性に注目していますが、前橋中心市街地を歩く訪日客の姿は残念ながらほとんど見られません。そのため、第一回 前橋国際芸術祭は、世界水準の現代アートを地方都市でも享受できるショーケースをつくると同時に、赤城山に抱かれた暮らしの風景や、近代製糸や前橋空襲にまつわる先人たちの苦難の物語を掘り起こし、グローバルなアートの文脈で翻訳・発信するリサーチ型のプロジェクトにも力を入れていきます。この芸術祭は私たちの足元に埋もれた歴史や土地とのつながりをアートで結び直し、この時代の何処に立っているのか、何処へ向かっていくべきなのかを探る旅でもあるのです。

3　ファッション・詩・映画・演劇 …多彩な表現があぶり出す前橋の日常の本質

前橋は日本近代詩の父・萩原朔太郎の生誕地で、その後も多くの詩人を輩出する〈水と緑と詩のまち〉です。前橋国際芸術祭では現代アートにとどまることなく、この街の日常に宿る記憶や物語を呼び出し、表現してくれるクリエイターを、詩・演劇・音楽などからも招聘。2025 年から前橋市中心市街地を舞台とするパブリックアートの設置計画や、アーティストが商店街で暮らしながらリサーチや作品制作をおこなうアーティスト・イン・レジデンスを、群馬県が推進する〈群馬パーセントフォーアート〉と連携して実施してきました。その成果発表でもある 2 年に 1 度の芸術祭開催を積み重ねていくことで、アートやアーティストの存在は、この街の日常になっていくでしょう。

4　第一回の開催テーマ「めぶく。」とは

「めぶく。Where good things grow.」は民間の視点から前橋市の特徴を調査・分析し、前橋市はどのようなまちを目指すのかを示す〈まちづくりビジョン〉として、2016 年 8 月に策定されました。前橋市は田中仁財団との都市魅力アップ共創推進事業としてこの取り組みをおこない、策定のための調査をドイツのコンサルティング会社〈KMS TEAM〉に依頼。その結果、前橋について「Where good things grow.（良いものが育つまち）」という分析がなされました。この英文に前橋市出身のコピーライター・糸井重里さんが新しい解釈を加え、日本語で「めぶく。」と表現されました。このビジョン策定から 10 年の節目に開催する前橋国際芸術祭 2026 では、参加アーティストとともに人々が未知のものに触れ心を動かすアート体験を創造し、街のあちこちで未来を彩る「めぶく。」を起こしていきます。